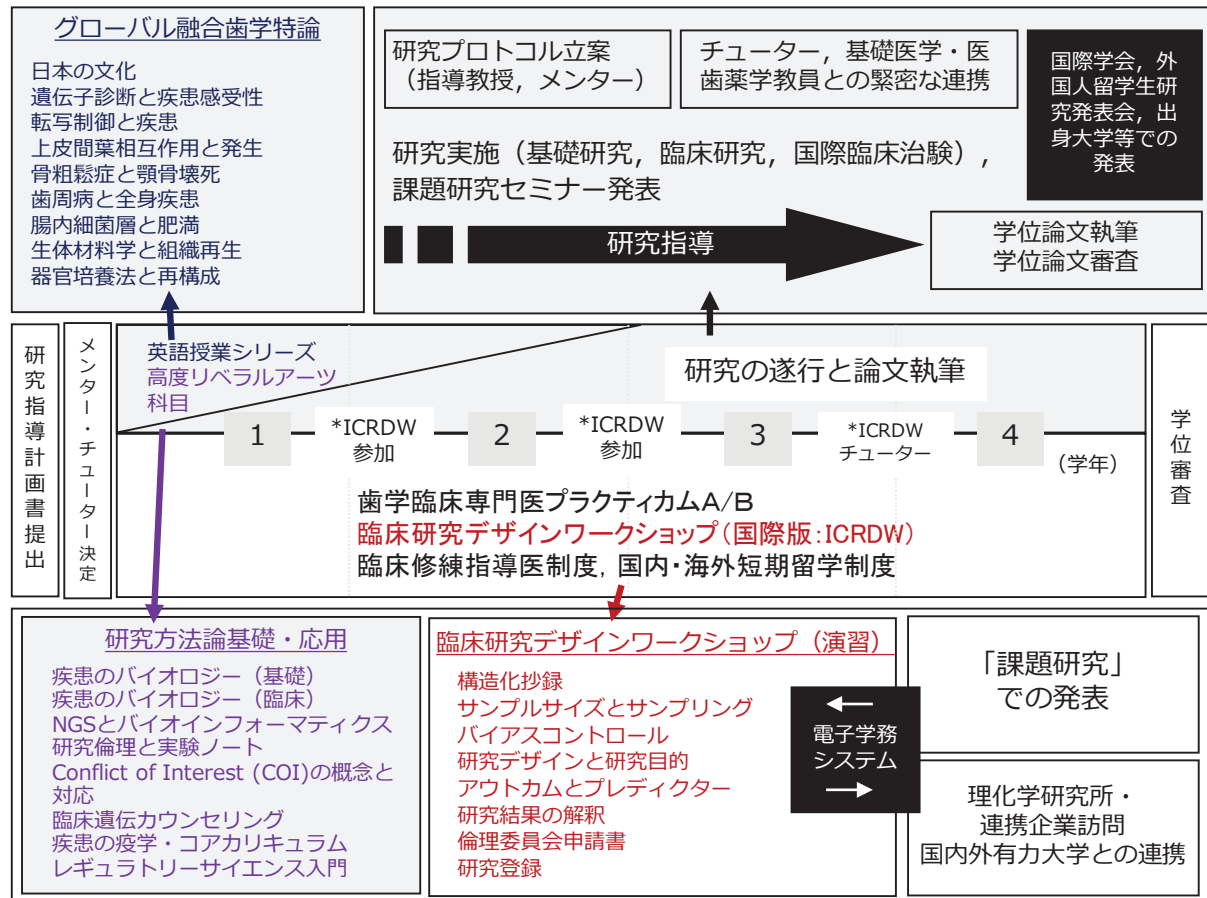


歯学学位プログラム



養成する人材像：医療や生命科学に対する幅広い学識と高度な研究遂行能力に加えて、医療・福祉・生活支援を統合した**SDGs歯科医療**を支える高度臨床専門医に必要な**臨床技術（スキル）**や**態度**を修得し、先進的医療技術開発に必要な**臨床エビデンス**を創り、**使うことのできる歯学先端医療人**、**大学教員**、**研究者**を輩出することを旨とする。また、学生が、自分のキャリアパスに合った特色ある授業科目の履修が可能となるよう、学位プログラムには選択プログラムを設定する。

- 母体：平成19年度 文部科学省 組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療系大学院高度臨床専門医養成コース」
- 特色1：本プログラムの「臨床エビデンスを創り、使うことのできる先端医療人を輩出する」というミッションを完遂するために設けられた「臨床研究デザインワークショップ」は、14年にわたって全国公開され、臨床研究の初学者に基礎的な臨床研究遂行能力を涵養する役割を担っている。この科目は、海外にも移植され、国際臨床研究デザインワークショップとしてASEAN諸国に展開されている。
- 特色2：「歯学臨床専門医プラクティカム」では、岡山大学病院の歯科系各診療科と提携して、高度臨床専門医に認定されるために必要な臨床技術や知識、態度を修得させる。
- 特色ある事業：文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」、国費外国人留学生を優先配置する特別プログラム「ASEAN中核医療系大学と連携する口腔器官再生・再建・統合生物学大学院特別コース」があり、世界中からの優秀な大学院生の獲得と日本人研究者の国際感覚の涵養に一役買っている。



※ 優秀な学生には、3年間で学位取得が可能な短期修了制度がある

履修モデル：歯学学位プログラム

学生の経歴：

歯学部卒業・歯科医師国家試験合格、臨床研修歯科医として大学病院に勤務中。

動機：高度歯科臨床専門医になりたい。知識、臨床技能や態度を身に付けて、臨床エビデンスを創り、使うことができる歯科医師になりたい。

必修科目

選択必修科目

学位：博士(歯学)

学位論文題目：要介護高齢者の腸内細菌叢と低体重および生命予後との関係

修了後の進路：出身分野の医員を経て、米国大学にポスドクとして留学。大学教員として帰国。

入学

修了

一般入試	1年次		2年次		3年次		4年次	
	【前期】	【後期】	【前期】	【後期】	【前期】	【後期】	【前期】	【後期】
専攻共通科目 (高度レベル アーツ科目)	研究方法论基礎 (2単位)				← 学生は、研究指導教員・副指導教員と相談し ← 学修とキャリア形成に必要な 講義 を選択履修する。			
	研究方法论応用 (2単位)							
専攻共通科目 (専門基礎科目)	医療データサイエンス (2単位)	← 学生は、研究指導教員・副指導教員と相談し 学修とキャリア形成に必要な 科目 を選択履修する。						
専門科目	臨床研究デザインワークショップ (2単位)							
	歯科臨床専門医プラクティカムA (実習先：歯科・口腔インプラント科部門 [高度補綴治療学]) (2単位)							
	歯科臨床専門医プラクティカムB (実習先：歯科・口腔インプラント科部門 [口腔リハビリテーション学]) (2単位)							
リサーチワーク	インプラント再生補綴学実習 (8単位) (主科目:インプラント再生補綴学)							
	インプラント再生補綴学演習 (4単位) (主科目:インプラント再生補綴学)							
	医歯薬学プレゼンテーション・プラクティス (2単位) (副科目:口腔微生物学)							
審査	1～2年次は 歯科臨床専門医プラクティカム 、 3～4年次は リサーチワーク に注力する。				課題研究 (4単位)		30単位取得	
					研究基礎力審査		学位論文 執筆・投稿	予備審査 本審査

人材養成目標：歯学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、地域医療から高度先進医療までを担う高度専門医療人、歯科医学・歯科医療に関する確かな教育研究能力を備えた大学教員、創造性豊かで優れた研究・開発能力を持ち学際的・国際的に活躍できる歯学・歯科医療分野の研究者などを養成する。

■ 歯学学位プログラム（コーディネーター 窪木 拓男）

医療や生命科学に対する幅広い学識と高度な研究遂行能力に加え、臨床技術（スキル）や態度を修得し、先進的医療技術開発に必要な臨床エビデンスを創るとともに使うことのできる歯学領域の先端医療人、大学教員や研究者を養成します。歯学学位プログラムでは、独自の臨床専門医養成キャリアパスや基礎研究者養成キャリアパスの構築を念頭に、臨床研究中核病院である岡山大学病院や、医歯薬学総合研究科を構成する医学系講座・薬学系講座とも連携して、高度な歯科医療ニーズや医療連携ニーズ、高度研究者養成ニーズに応えることができる学際性に富む教育プログラムを展開します。

修了後の進路としては、数年の間に臨床歯科専門医の資格を取得後、中核病院や歯科診療所に勤務する先端歯科医療人や、国際的な高度研究者養成機関に留学後、国内外の教育機関における指導的歯科医、独立した高度医療系研究者として活躍する大学教員、公的研究機関や企業の研究者などを想定しています。

なお、歯学学位プログラムでは、選択プログラムとして、研究領域の垣根を取り払った学際的研究や国際共同研究を開拓できる能力の修得を目指す「ボーダレス歯学研究者養成プログラム」も設定しています。

授業科目一覧

授業科目	標準 配当 年次	備考（担当教員）	単位数		
			必修	選択 必修	選択
コースワーク					
専攻共通科目（高度レベルアート科目）					
研究方法論基礎	1・2	（学務委員長）	2		
研究方法論応用	1・2	（学務委員長）	2		
専攻共通科目（専門基礎科目）					
医療倫理と法律的・社会的問題	1・2	（神田 秀幸）		0.5	
医療対話学（コミュニケーションスキル）	1・2	（大西 勝）		0.5	
医療データサイエンス	1・2	（座間味 義人、小山 敏広、濱野 裕章）		2	
疫学	1・2	（頼藤 貴志、高尾 総司）		2	
専門科目					
歯科臨床専門医プラクティカムA	全	（受入指導教授）	2		
歯科臨床専門医プラクティカムB	全	（受入指導教授）	2		
最新歯科医学各論	1~3	（歯学系部会長）		2	
臨床研究デザインワークショップ（演習）	1・2	（窪木 拓男）	2		
イノベティブ・デンティストリー特論	2・3	（歯学系部会長、窪木拓男）		2	
口腔ケア・摂食嚥下機能評価・栄養学特論	2・3	（高柴 正悟）		2	
脳卒中特論	2・3	（安原 隆雄）		2	
心筋梗塞特論	2・3	（中村 一文）		2	
メタボリックシンドローム・肥満症特論	2・3	（和田 淳）		2	
アンチエイジング特論	2・3	（尾崎 敏文）		2	
臨床老年医学特論	2・3	（光延 文裕）		2	
グローバル歯学教育実習	全	（受入指導教授）			1*
リサーチワーク（学生の研究活動と受入れ指導教授による研究・発表指導を単位化した科目）					
歯学実習（別表参照）	全	実験・調査・記録（受入指導教授）	8		
歯学演習（別表参照）	全	学内・学外での研究発表（受入指導教授）	4		
医歯薬学プレゼンテーション・プラクティス	全	専攻内共同研究先での研究発表（共同研究先の受入指導教授）		2	
課題研究	2・3	研究基礎力審査（学務委員長）	4		
グローバル・プレゼンテーション1	全	国外国際学会での研究発表（受入指導教授）		1**	
グローバル・プレゼンテーション2	全	国内国際学会での研究発表（受入指導教授）		1**	
修得すべき単位数			26	4	

*単位修得に上限は設定せず、繰り返し修得を可とする。修了要件に含む単位としては2単位を上限とする。上限を超える単位については、修了要件外とする。

**単位修得に上限は設定せず、繰り返し修得を可とする。修了要件に含む単位としては2単位（グローバル・プレゼンテーション1又はグローバル・プレゼンテーション2のいずれか一方で2単位も可）を上限とする。上限を超える単位については、修了要件外とする。

授業科目群	授 業 科 目	単 位 数	
		実習	演習
歯学実習	口腔形態学	8	4
歯学演習	口腔機能解剖学	8	4
	口腔生理学	8	4
	口腔生化学	8	4
	口腔病理学	8	4
	口腔微生物学	8	4
	歯科薬理学	8	4
	生体材料学	8	4
	応用情報歯学	8	4
	歯科保存修復学	8	4
	歯周病態学	8	4
	インプラント再生補綴学	8	4
	咬合・有床義歯補綴学	8	4
	歯科矯正学	8	4
	顎口腔再建外科学	8	4
	口腔顎顔面外科学	8	4
	歯科放射線学	8	4
	予防歯科学	8	4
	小児歯科学	8	4
	歯科麻酔・特別支援歯学	8	4
	総合歯科学	8	4

歯学学位プログラム「歯科臨床専門医プラクティカムA, B」在外実習領域一覧

在外実習領域	在外実習先診療科	関連する専門医
接着歯学臨床応用学 審美歯学臨床応用学	歯科・保存歯科部門	歯科保存治療専門医 接着歯科治療専門医 日本歯科審美学会認定医
口腔感染・炎症制御学 歯周病治療専門学 歯髄・歯内病変治療専門学	歯科・歯周科部門	歯科保存治療専門医 歯周病専門医
高度補綴治療学 顎関節症・口腔顔面痛治療学 口腔インプラント義歯学 口腔リハビリテーション学	歯科・口腔インプラント科部門	補綴歯科専門医 歯科顎関節症専門医 口腔インプラント専門医 老年歯科専門医
高度義歯補綴学 下顎機能異常治療学 顎顔面補綴治療学 高齢者歯科医療学	歯科・補綴歯科部門	補綴歯科専門医 歯科顎関節症専門医 老年歯科専門医
小児矯正学 成人矯正学	矯正歯科	矯正歯科専門医
口腔・顎・顔面外科手術学 口腔内科学および口腔・顎・顔面 インプラント治療学	口腔外科・顎口腔再建外科部門	口腔外科専門医
口腔外科治療学 口腔外科疾患病棟管理学	口腔外科・口腔顎顔面外科部門	口腔外科専門医 口腔がん専門医 がん治療認定医（歯科口腔外科） 国際口腔顎顔面外科専門医
口腔診断学 歯科医療情報管理学	歯科・歯科放射線科部門	歯科放射線専門医
E B D応用学 臨床予防歯科学 実践地域歯科保健学	歯科・予防歯科部門	公衆衛生専門家・疫学専門家 日本口腔衛生学会専門医・口臭専門医 日本口腔衛生学会専門医
臨床小児歯科学 小児口腔保健学	小児歯科	小児歯科専門医
歯科全身管理学 口腔顔面痛・ストレス管理学 口腔機能支援歯学 ノーマライゼーション歯学	歯科・歯科麻酔科部門	歯科麻酔専門医 有病者歯科医療専門医
	スペシャルニーズ歯科センター	日本障害者歯科学会専門医 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士
総合歯科医療学 高頻度歯科疾患治療学	歯科・総合歯科部門	歯科保存治療専門医 日本総合歯科学会認定医

「歯科臨床専門医プラクティカムA, B」では、科目ごとに異なる領域で在外実習を行う。
指導教授との相談のうえ、上記「在外実習」から2領域を選択履修する。